



倉田小だより 7月号



横浜市立倉田小学校

～つながり いきいき 倉田っ子～

小さな親切

校長 末松 隆一郎

1年生が育てている朝顔、2年生や個別支援学級のみんなが育てている野菜たち、5年生のバケツ苗など、倉田小の校内外の鉢や畑は、梅雨の雨や夏の陽射しが交互に織りなす空模様と子ども達の優しさに包まれてすくすくと育っています。「真夏」は、湿った風の背中越しまできているようです。

先日教室で授業を観に行った時、私のバインダーにはさんであった紙がバラバラと落ちてしまいました。すると、何人かの子ども達がさっと駆け寄り拾い集めてくれました。「ありがとう。みんな優しくて親切だね。」と言うと、子ども達は照れくさそうな笑顔をかえしてくれました。

小さな親切・・・。昭和38年3月の東京大学卒業式において、当時の芽誠司(かやせいじ)学長は、卒業生に次のような言葉を贈ったそうです。

「“小さな親切”を、勇気をもってやっていただきたい。そしてそれが、やがては日本の社会の隅々までを埋め尽くすであろう親切というなだれの芽としていただきたい。大学で学んだ様々な知識や教養を、ただ頭の中に百科事典のように蓄えておくだけでは立派な社会人とはなれません。

その教養を、社会人としての生活の中に活かしていくには、やろうとすれば誰にでもできる“小さな親切”を絶えず行っていくことが大切です。“小さな親切”は、バラバラな知識を融合させる粘着剤の役目を果たすのです。」

東大総長を勇退する直前の、この卒業式での式辞と「良い行いは波及する。」という理念が新聞で報じられたことをきっかけに、「小さな親切運動」が始まりました。「小さな親切を絶えず行おう」と呼びかけ提唱し、「小さな親切運動本部」も発足。今では全国規模の運動へと発展しています。

「小さな親切」、耳慣れた言葉ではありますが、人間らしさと、あたたかな人間関係を構築するための第一歩であることをあらためて感じます。一つ一つの行為＝親切は当たり前で小さなことであっても、それはやがて、「豊かなかわり」となり、本校教育目標「つながり いきいき」に繋がっていくものであると思います。ご家庭でも是非話題にいただき、親切と優しさに満ち溢れた社会への「なだれの芽」の一つを作っていただければと思います。

「小さな親切」

八か条

芽誠司初代代表が考案した、日常生活の基本です。

- ① 朝夕のあいさつをかならずしましょう
- ② はっきりした声で返事をしましょう
- ③ 他人からの親切を心からうけ入れ、「ありがとう」といしましょう
- ④ 人から「ありがとう」といわれたら、「どういたしまして」といしましょう
- ⑤ 紙くずなどをやたらにすてないようにしましょう
- ⑥ 電車やバスの中で、お年寄りや赤ちゃんをだいたお母さんには席をゆずりましょう
- ⑦ 人が困っているのを見たら、手つだってあげましょう
- ⑧ 他人のめいわくになることはやめましょう



スローガン

できる親切はみんなでしよう、それが社会の習慣となるように

そのほかの活動

- エッセイコンテスト ● 作文コンクール ● 紙芝居を活用した道徳授業
- 日本列島コスモス作戦 ● 車いす寄贈 ほか



「小さな親切」運動の諸活動は、SDGsの目標達成に貢献しています。あなたも、できることから始めてみませんか。

